

平成23年5月25日

荒木田 岳 様
石田 葉月 様
井本 亮 様
金 炳学 様
熊沢 透 様
後藤 忍 様
小山 良太 様
澁澤 尚 様
中川 伸二 様
中里見 博 様
永幡 幸司 様
沼田 大輔 様
村上 雄一 様
森 良次 様

福島大学長 入戸野 修
(公印省略)

意見と要望について(回答)

2011年5月17日付けで意見及び要望のありましたこのことについて、下記のとおり回答します。

記

【意見に対する回答】

意見として受け賜われますが、初めに幾つか大学としての見解を述べさせていただきます。

5月6日に突然送付されたメールで「授業再開についての公開質問状」への回答依頼を受けました。同日には学生代表者からも直接に「安全安心な学生生活の確保のための要望書」を受け取りましたので、教員有志の皆さんからも別途文書で正式な依頼が届くものと待っていました。しかし、回答提出期日が迫り、早急に分かり易い形式で回答すべきと判断し、質問内容と対比した形式で回答文書としました。公文書としての回答の体裁になっていなかったことについては、お詫びします。

授業再開については、単に授業を開始することばかりではなく、授業料免除申請手続、教員免許状等資格申請、就職活動支援、学寮の入退寮、被災学生の支援策などを含む総合的な課題と捉えておりました。これらの学生に関わる活動の開始は、原発事故による放射能汚染の問題がなければ、早ければ早い程良いと判断しました。

少なくとも教職員の意見を聴取して決定すべきとの意見はご尤もですが、緊急時であったこと、教員の出勤状況は必ずしも十分ではなかったこと、危機対策本部は4学類長も本部員

であり、各学類では危機対策室を設けて各教員への連絡・意見聴取はなされていると判断しました。

今後は学生が主役の大学として、学ぶ者と教える者の枠を越えて、教育の内容やカリキュラムの在り方までも学生が参画できるような三者自治による大学運営が進展すればと願っています。

【要望に対する回答】

要望については、大学として現在検討中のもの、あるいは実施している具体策について回答いたします。

1．前回の文書については、教員有志の質問に対する回答で記述したとおりです。

2．健全な大学運営は構成員による意向を踏まえて行われるべきであると思います。

今後も、学内からの様々な建設的な意見を真摯に受け止めて、前向きな大学運営に努めます。

3．緊急時の対応については、平成23年3月23日に開催した危機対策本部会議で避難フロー図を確認しておりますが、その後の様々な事態の推移もあり、具体策について再検討することとしています。

また、「原子炉が不安定化した場合の緊急な対策」と「長期化する放射線被ばくへの対応」を含めた「学生用の放射線対応マニュアル」および「地震対応マニュアル」の改訂版を各学類から選出された教員を含めて作成することとしています。

4．被ばく放射線量については、これまでも暫定基準を判断基準とはしていません。

また、平成23年5月2日付けのメッセージについては、誤解のないような文章表現に改めました。

大学としては、これまでも被ばく放射線量は少なければ少ない方が健康上良いという立場です。汚染状況の公表及び除染対応並びに健康管理の実施策を通じて、長期的には年間1mSv以下になることが望ましいと考えております。

5．構成員の安全を確保するために最大限の措置をとることは大学の責任です。従って、大学及び附属学校園における放射線モニタリング、放射線低減策、中長期的な健康管理の実施に努めるべきと考えます。

現在、いくつかの対応策について実施中ではありますが、こうした安全確保策の実施に対する財政的支援については、文部科学省に強く求めていきます。

6．上述しましたように放射線低減策については、喫緊の課題と受け止めております。

現在、実施に当たってクリアすべきいくつかの課題、例えば除染場所の選定及び土壌の取扱い等を調整する必要があり、現在実施に向けて準備中です。

7. 「安全上の理由から通学を望まない学生」に対する件については、平成23年3月28日及び4月1日に開催した危機対策本部会議で審議し、単位認定等も関わるので当該学生の意向を聞いて、学生の不利益にならないよう配慮し「学類毎に個別に対応する。」ことで確認しました。

ご提案の「大学の講義を相対的に安全な場所に移動して・・・」は、危機対策本部会議でも取り上げられましたが、「授業再開」は単に講義だけではない課題を包含しているので、総合的な決断として、大学機能（様々な学生支援機能は教職員が協働して成遂げられる。）を移転せず、学生の物的・人的・精神的支援を効果的に行うための「授業再開」策を取りました。

さらに、再々ご指摘のように、大学執行部は「多様性を認めない硬直的対応」を取っている訳ではないことをご理解ください。

大学運営は様々な意見を有する構成員によって構成されています。

しかし、現実にはどの意見を選択し実施するかについては、内的状態ばかりでなく、外的条件や財政状態など総合的に判断しなければなりません。

大学人の叡智を結集して、この福島大学の危機を乗り越えていく必要があります。今後とも福島大学のためにご協力をお願いいたします。